

発行日：2018年4月1日

「心豊かな地域」の実現に向け、実践の小さな積み重ね

社会福祉法人 もえぎの会
理事長 野村 和成



第四中跡地に、新しいグループホーム「沙羅の家 清水」を開設しました。—昨年、目黒区が公募した第四中跡地活用計画の事業者選ばれ、東京都の厳しい審査を受け、地域の皆様に理解していただき、予定通り整備することができました。3月3日には、青木区長を始め、区議会、行政、関係団体の方、入居予定者。家族、世話人などが出席して開所式を行い、引き続き内覧会を行い、多くの方に見ていただきました。この建物には、3ユニット(3軒)18名のグループホームと短期入所2名に加えて、国が定め、目黒区の実施する新しい「地域生活支援拠点事業」を受託しています。

この「地域生活支援拠点事業」は、障害者の重度化・高齢化を見据え、住み慣れた地域で安心して生活するために必要な支援をすることを目指しています。もえぎの会は、重要な課題と認識し、7年前から高齢化に向けた取り組みを開始し、内部で検討するとともに、関係者と情報交換、意見交換をしてきました。そのため、国により、事業が制度として定められ、目黒区で初めて施行される事業者として運営することは望むことであり、皆様の期待に応えるべく力を発揮したいと考えています。事業は立ち上げただけで完成するのではなく、多様な課題にひとつずつ応え、経験を積み重ねて能力を高めていくものであります。もえぎの会の総力を結集するとともに、関係する多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。皆様におかれましても、気軽に活用していただきますようお願い申し上げます。皆様の協力によりこの事業は成長できると確信しています。

1978年に活動を開始したもえぎの会は、ちょうど40年経過し、その間の地道な実践の積み重ねで、今日に至っています。小さな集団から始まり、少しずつ規模を拡大してきました。2000年に社会福祉法人の認可をいただき、事業を開始してから、事業拠点は、1か所から7か所に、13名からスタートしたスタッフは50名を超えるに至りました。法人の運営として、次の段階に向かうために、今年の年間モットーは、「大規模への対応」としました。「自助自立」の精神で、スタッフ、家族、役員が一体となって、時間を使い、体を使い、頭を使い活動していますが、さらに、地域の皆さんの期待、要請がある限り、応えるために、前に進む決意です。それにより、支援の質の向上、サービスの拡大、地域連携の拡張、運営の安定などをもたらします。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

2018年度 もえぎの会 事業報告会・懇親会のご案内

下記のように本年度の開催を予定しております。

7月14日(土) 目黒区総合庁舎 2階大会議室

改めて、ご案内をお送りいたします。ぜひ、お誘いあわせの上、ご出席していただきますようお願い申し上げます。



昨年の様子

もえぎの会 2018年度事業計画

施設長 小平真理

もえぎの会は、3月から沙羅の家 清水を開設し、3ユニットのグループホーム(共同生活援助)、ショートステイ(短期入所)に加えて、目黒区から受託する地域生活支援拠点事業を開設しました。今年度、本格的な運営となり、地域の障害者・家族の高齢化対策に取り組めます。入居者を受け入れながら安定運営を目指します。特に、地域生活支援拠点は、目黒区、及び関係する事業者、団体と連携して一步一步進めます。

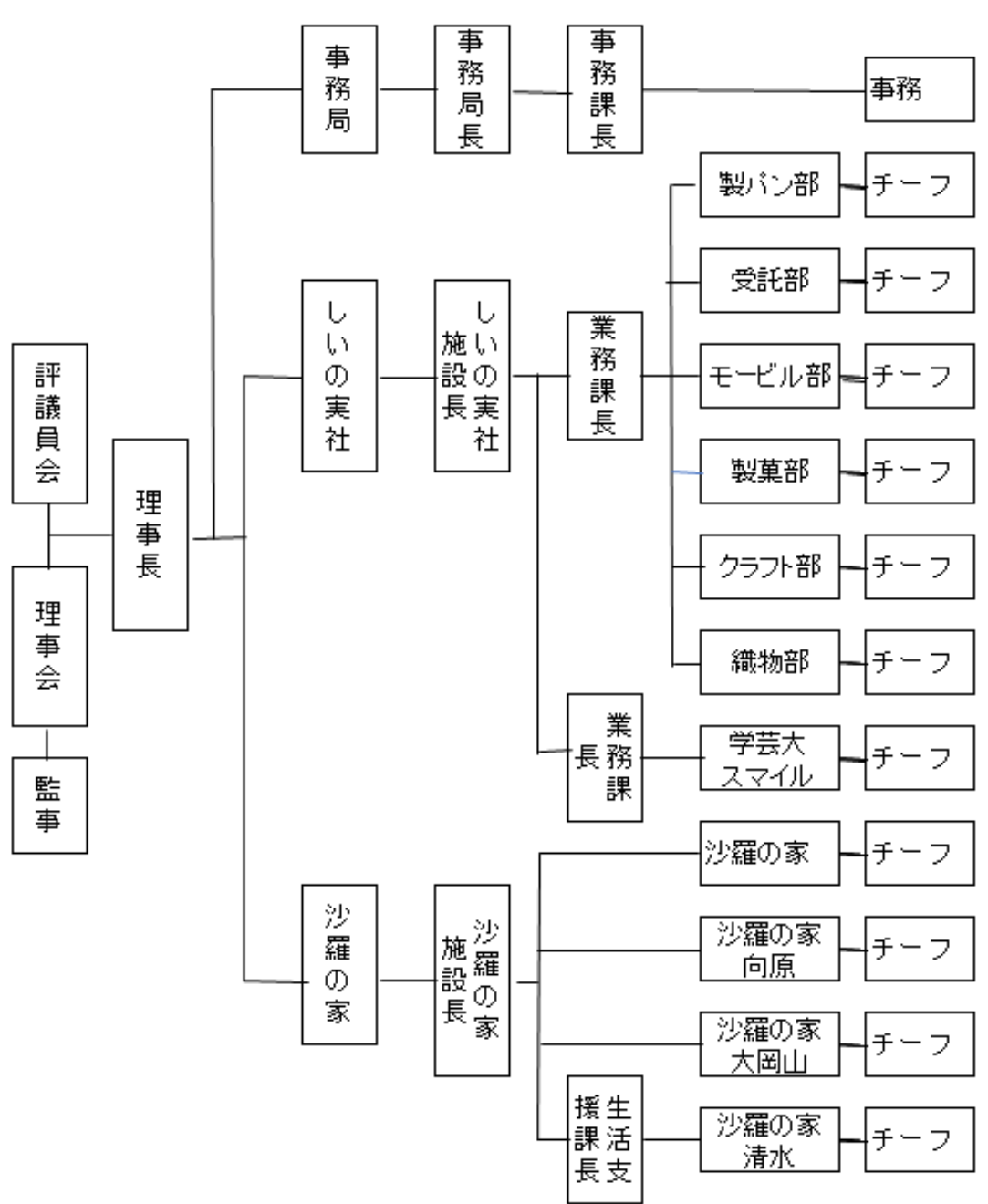
事業拡大に伴い、今年度のイヤーモットーを「大規模への対応」と定め、新たな運営体制の確立と組織運営の改善を推進し、法人本部の強化、沙羅の家の組織の確立を目指します。

しいの実社では高齢化、重度化に対応するために関係機関との連携とスタッフの支援力向上を図り、それを支えるスタッフが働きやすい職場となるよう推進します。しいの実社 学芸大学スマイルプラザは、就労移行支援事業の充実、学芸大学とスマイルプラザの連携を推進します。

変化する制度、厳しい財政状況、人材確保などに対応し、沙羅の家 清水の開設、法人本部の強化に取り組み、社員・家族・スタッフが、一丸となって、もえぎの会は新たな段階へと進みます。

組織規程を改定し、組織の見直しを図り、事務局を設置し、しいの実社と沙羅の家を分離して、事業拡大に対応します。

あわせて幹部スタッフのマネジメント力の強化、中堅スタッフの育成により、サービスを安定して提供できるようにします。また、働きやすい職場をさらに追及し、支援力の向上に注力できる環境を整えます。



第16回 しいの実祭 開催

2017年11月25日(土)、恒例のしいの実祭を開催し、1600名を超える参加がありました。クッキー、パン、マフラー、紙漉き製品、アクセサリなど、自主製品に加えて、模擬店やバザー、目黒区内の障害者施設による販売、後援会会員のお店の製品販売などを行いました。

毎年テーマを決めて社員を紹介する展示は、今年は平和を求めて、「ピース」でした。今後はテーマをさらに大切にして、お客様に知っていただき、スタッフとともに一体感を持てるようなお祭りにしたいと考えています。

毎年、少しずつ規模を拡大し、新企画を増やし、社員・スタッフに加えて、清水町会、区内の施設、関係団体、後援会、家族会、近隣の協力により開催しています。

今年度は2018年11月23日(金、祝)に予定しております。新しい企画を準備して、多くの皆様と一緒に

盛り上げていただき、社員と交流していただきますようお願い申し上げます。ボランティアさん、大歓迎です。



勢揃いのオープニング



今年のテーマ「ピース」



クッキー販売



イベントは今年も、大盛況！

グループホーム「沙羅の家 清水」開所式および内覧会

2016年6月に公募が始まった目黒第四中学校跡地における障害者グループホームの運営事業者に選定していただき、足掛け3年にわたり準備を進めてきました。

3月3日に開所式および内覧会を執り行うことができ、多くの皆様のご協力により、厳しい状況も乗り越えられたことに改めて、感謝申し上げます。

青木区長を始め、行政、区議会、関係団体、町会の皆様にご臨席いただき、入居予定者・スタッフともども門出のお祝いをしました。引続き、内覧会では、60名のお客様に見学していただき、期待の大きさを改めて認識しました。



会場 狭い食堂に寿司詰め



青木区長祝辞



スタッフ紹介



後援会

会員インタビュー

萌木

三協株式会社



SANKYO
ビル・マンション施設の
資産価値向上をご提案します

目黒区鷹番2-19-8

TEL 03-3712-3361

<http://www.sankyo-no1.co.jp>

東急東横線学芸大学駅を降りてすぐの「三協株式会社」に2代目の三田春彦社長をお訪ねしました。昭和48年、地元鷹番に先代のお父様が創業されました。業務はビルのメンテナンス、清掃、設備や内装など多岐に渡り、事務や外回りの方を含め60人近くの従業員の方が盛り立てておられます。

「昨今では受注は沢山あるけれど、それにすべて応えられないのが、頭の痛いところです。どこに行ったのかというくらい人がいませんねえ。」とおっしゃいます。人手不足は様々な業界で悩みの種です。

三田社長はとても穏やかな感じに見受けられますが、エネルギッシュに地域で様々な活動をされています。もともと青年会議所の活動でボランティア等、社会貢献の活動をされていて、OBとなられた今も、「いろいろな人にお世話になったので恩返しのためです。嫌いじゃないですからね」と地域の活動に注力されています。例えば、子どもたちと運動会やゲームで交流するメコモプレイランドなどを開催する「子ども会連合会」、毎年恒例の目黒川清掃を主催される「目黒東京ロータリークラブ」、目黒区青少年委員会等。もちろん、ご存知のように、もえぎの会の評議員として毎回貴重なご意見をいただいています。今回も「もえぎの会も頑張っていますが、一人一人を大切に、重点目標がさらに前進できるよう、今が踏ん張りどころだと思います。」と静かに話されます。

そんな秘めた熱さを支えているのは、「スポーツ全般が大好き」ということで、身軽な印象で納得です。マラソン、自転車でのツーリング、サッカー…東京マラソンでも堂々と完走されています。住みたいくらい好きなオーストラリアをまた訪れる日は、まだもう少し先になるでしょうか？ これからもよろしくお願いいたします。



三田春彦社長

野菜と魚とワインのお店 鷹番 日々～Hi-Bi

「日々精進、日々努力」の思いを込めて名付けられた“Hi-Bi”。学芸大学西口から都立大方面に少し歩いた鷹番にオープンされたのは7年前。店主の千田明さんの手から紡ぎ出される、美しくおいしい料理や居心地の良さが伝わってくる小物たちが迎えてくれます。

おすすめは？の問いに「それぞれ好みがありますから、そのお客様が何度もリクエストしてくださるものが一押しです。洋食屋さん？かなあ 近所の皆様に喜んでいただける料理を追求していきたいですね」と、準備に余念がなく、手を止めることなく話されます。

生まれも育ちも元住吉で、16歳からのアルバイトを含め、飲食に携わり36年。「休業時代は上下関係も厳しく、やめたいくらい苦しいことの連続でしたが、厳しく接してくれた人のことは今も大切です」とおっしゃいます。

休みは？には「お店の作業で一日が終わってしまいます。掃除に始まり、お店に関するすべてを一人でやるには時間が限られますから。」と笑顔です。

そんな中でも、「全日本司厨士協会」で幹事長を務められ、福島への炊き出しや子どもたちにお料理の楽しさや食育を普及するボランティア活動もされています。お店にちょこんと止まっている羊毛フェルトの小鳥たち。子どもの頃から編み物やパッチワークが傍らにあったのはお母さまの影響とか。お客様からの情報で、DNAは受け継がれ、小学生の息子さんが作られたというピンセットで折られたのかなあと思う緻密な折り紙を見せていただきました。またスーパー銭湯にもうん蓄がおありとも伺いました。



店主の千田明さん

厨房の温かさと人柄の温かさが一緒に伝わってくる店内。次は何を頂こうかと楽しみに店を後にしました。

目黒区鷹番3-5-2
松田ビル
TEL 03-3760-1700



医療法人社団 木かけ会 わたなべ医院

内科・脳神経外科・外科・リハビリテーション科



わたなべ医院

江戸川区江戸川4-22-4
TEL 03-3656-3232
<http://www.kokagekai.com>

「私のイメージでとロゴをお願いしたら…」と笑顔でおっしゃるのは院長の渡邊国博さん。以来、患者さんからのプレゼントの「フクロウ」は明るい院内に集まってきました。

ご近所の総合病院勤務を経て、2006年にご実家跡に開院されました。ご兄弟で医療に携わり、お子さんから高齢者まで、一日100人近くの患者さんを12名のスタッフと共にリハビリや診療をされます。「生活習慣病や慢性病など、上から下まで何でも診ます。何かあれば治療をして、専門分野に振り分ける、第一発見者になればいいかなと。」また「病院に行くのが辛いと言いつつ来ることができれば、好きな所に行ける体力がまだあるのですから。その時間を少しでも長くしてあげたいと思っています。在宅は大事ですが、誰かが居なければならない在宅医療はなかなか難しいと思います。人の手を借りる方向性を示してあげるのも医療の一つだと思います。」とおっしゃいます。認知症も、無理強いせず根気よく、変化を見逃さず早期発見を心がけていますとおっしゃいます。我々も、素直に受け入れる患者でありたいと思いました。



渡邊国博院長



医院 外観

昨年、先生ご自身が入院手術を伴う病気をされ「診てもらう立場になると、医者の一挙一動がこんなにも気になるのかと、目の前の先生が反面教師でいい体験になりました。」周りの優しさも痛感されたそうです。優しさと言えば、奥様が怪我をしたお母さん猫を助け、生まれた仔猫たちとともに引き取られ、元々飼っていたミニチュアダックスがお父さん代わり。先生も毎日のお掃除で奮闘されているとか。「自宅が犬猫屋敷になっています！」と嬉しそうに、オリジナルカレンダーを見せてくださいました。

これからは、現在の診療を充実させ、地域のクリニックとして、在宅もある程度積極的に体制を整えつつ、検査など周りでやれないことで地域に貢献できるようにと話されます。再びフルマラソンを完走目標とともにこれからのご活躍をお祈りします。

新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ち頂くか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

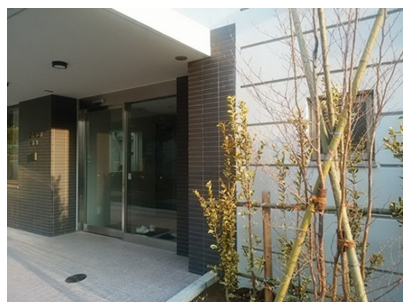
問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

グループホーム「沙羅の家 清水」 開設

地域生活支援コーディネーター
会田久美

3月3日、寒さの中に春の気配を感じる頃、沙羅の家 清水は、開所式を迎えることができました。開所式には、グループホームの狭い食堂に多くの皆様にご出席いただきました。入居予定の利用者も出席しました。沙羅の家 清水は、四中跡地に建てられた、3階建てのグループホームです。各フロアがユニットとして分かれていて、各フロアで食事や洗濯、入浴ができます。お風呂も各フロアに2つあり、時間を気にせず、余裕をもって入浴することができます。



今までの経験を生かし、さらに安心して暮らせる場にしていきたいと考えております。

また、今回、目黒区より業務を受託した「地域生活支援拠点」が併設されています。地域で暮らす障害者を対象として、生活全般にかかわる相談を受け付け、必要に応じて、地域の専門相談窓口や関係機関と連携して対応します。

地域の皆様の期待応えるために、一步一步進めていきます。

沙羅の家 大岡山 近況

世話人 山川勝巳



大岡山の夏祭り

沙羅の家 大岡山では、商店街の盆踊りに参加し、地域の人々との交流をしています。輪の中で踊っていると知らない人から声をかけられ、地元で生活する素晴らしさを実感します。

11月の祝日イベントでは、一人の入居者の通所先である下目黒福祉工房のあすなろ祭に、他の全員で行きました。向かう途中、お勧めのラーメン屋に立ち寄りしました。工房では、全員コーヒードリンクをして盛り上がりました。その後、近くの目黒不動尊を参拝し帰路につきました。

普段は楽しく過ごしていますが、緊急入院を要するという今までにない事態が発生し、手を尽くし、現在は健康を取り戻しています。しかし、課題も多く、検査には同意書が必要で、入院の保証人、手術の同意書に親族の署名が必要で、身寄りの少ない利用者の場合は、時間との闘いとなり、事前の備えを実感しました。これからはどのように終わっていくかの課題に取り組む必要があります。安心して楽しく充実した人生を送るために、スタッフ全員で考えていきたいと強く実感しています。よろしくお願いいたします。



あすなろ祭



ラーメンに舌つづみ

編集後記

皆さまのご協力を頂きながら規模の拡大が進む中でも、守るべきもの、変えて行くべきものを見極めながら前向きに進んでいきたいと思っておりますので、今年度もよろしくお願いいたします。(岡田な)

発行:

社会福祉法人もえぎの会
住所: 目黒区目黒本町2-7-3
(法人本部)
電話: 03-5724-7153
e-mail: shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

